



ひがし風



新しい年を迎え、幸多かれ

校長 伊藤 誠



新年あけましておめでとうございます。

保護者や地域の皆様におかれましては、日ごろより、本校の教育活動に対しまして、深いご理解と温かいご協力を賜り心より感謝申し上げます。今年もよろしくお願いいたします。

今年の干支は「午（うま）」です。「午」は太陽が最も高く昇る時刻を表す文字であり、活力・情熱・行動力の象徴とされています。更に今年は60年に一度巡ってくる「丙午（ひのえうま）」です。「丙」「午」両方とも火の性質をもつことから、強いエネルギー・生命力に満ち溢れている年になるともされており、令和8年が心身ともに健康な年になる

るとともに、保護者・地域の皆様のご繁栄、幸多いことを祈念しております。

いよいよ学校は、1年間のしめくくりである3学期を迎えました。この学期が終わると、6年生は卒業となり、中学生になります。そして、それぞれの学年が進級します。3学期は短い学期ですが、子どもたちにとっては、重要な学期です。子どもたちが新たな目標に向かって、着実に努力できますように各ご家庭におかれましては、子どもたちの日常生活に十分な心配りをお願いいたします。

さて、先日、豊臣秀長を主人公とした大河ドラマがスタートしました。豊臣秀吉は戦国時代に立身出世をして天下統一を果たし、大阪城を築くなどとても有名ですが、その弟である秀長のことはあまり知られていないのではないのでしょうか。

豊臣秀長は、農民として生活していましたが、兄・秀吉の熱心な誘いで武士の道を歩み始めます。身内の少なかった秀吉が一番信頼できる片腕として、武将としても頭角を現し、「縁の下での力持ち」として天下人に上り詰めた秀吉を陰で支えました。秀長は、活発・派手な秀吉と対照的に、温厚で控えめ、冷静な性格だったといえます。秀長の人柄を表すエピソードとして、秀吉の甥・豊臣秀次が失態を犯し、徳川家康軍に敗れて秀吉を激怒させた際、秀長がかばってやり、信頼回復の手助けをしたという逸話が残っています。また、領主であった紀州・大和・河内地方は、領地をめぐる武士と寺社が激しく対立する地域でしたが、寺社の訴えに耳を傾け、問題解決のために努力を惜しまなかったとされます。更に秀吉のブレーキ役として、九州征伐の際には秀吉が強硬策に出ようとした際、穏便な策を進言し、その後のスムーズな統治に貢献したともされています。



調整役として人をつなぎ、家臣団を円滑に機能させ、客観的な視点・冷静な判断により組織を支えた秀長。その存在なくして、豊臣秀吉の全国統一はあり得なかったことでしょう。もしかしたら「秀長が長生きしていれば豊臣家の天下は安泰だった」かもしれません。

「動」の豊臣秀吉に対して、「静」の豊臣秀長といわれますが、その生き方・考え方は、現代社会を生きる私たちに多くの示唆を与えてくれているように思います。国内外を問わず、人と人とのつながり・対話を重視し、国際平和に寄与したり共生社会の実現に貢献したりする子どもたちの礎を築く責務を新たに心に刻み、今年も教職員一丸となり、全力で教育活動に取り組んでまいります。